

# 新田一小の壁新聞が農水大臣賞 3年生28人が水田の生物調査などをまとめる

地域や学校での農業体験、自然学習を壁新聞で発表する「子どもファーム・ネット全国交流会」が1月、東京で開かれ、新田一小3年1組の「ふるさといっぱい新聞」が全国1位の農林水産大臣賞に選ばれました。



壁新聞を手に全国1位を喜ぶ新田一小3年生

深めることを目的に、農業・畜産体験の支援を主な活動内容として、農業団体などが中心となり今年度設立。交流会には、全国各地の学校や子ども会から95点の応募があり、子どもによる投票審査が行なわれました。

同小は、総合的な学習の時間で取り組んだ「田んぼの学校」で、田植えや稲刈りの農作業のほか、「ふゆみずたんぼ冬期湛水水田」でのカエル、ミミズなどの生息調査を実施。それらを題材にした作文やデータをまとめ、イラストと一緒に壁新聞にまとめました。

子どもたちは「パソコンを使って作文を作るのが難しかった」「記事やデータをどの位置に載せるかレイアウトに苦労した」など、紙面作りの難しさについて話していました。



児童28人はとても元気がよくみんな仲良しです

交流会に参加した星元晴君は「1位は違う学校だと思っていたので、『登米市』と発表されてすごくうれしかった」と入賞の感激を思い起こしています。



沼倉会長から健全育成成功芳者に感謝状が贈られました

## 青少年の健全な育成を目指して

### 登米地区青少年健全育成推進のつどい

登米地区青少年健全育成推進のつどい（同協議会主催）が1月20日、豊里多目的研修センターで開催されました。市内の推進指導員やPTA、学校関係者ら約130人が参加。社員が交代で豊里小の全



高橋先生が子どもに寄り添う大切さを話しました

児童に、あいさつ運動を展開しているソニー宮城(株)豊里事業所、スポーツ少年団と子ども会活動に貢献している菅原光正さん（登米町）と千葉辰雄さん（石越町）に感謝状が贈られました。

その後、NPO法人「冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク」代表高橋悦子先生の講話がありました。大人が子どもに寄り添い、昔の遊びや体験話を伝えながら、成長を支援することの大切さを話しました。

また、登米町と豊里町子ども会活動の事例発表もあり、参加者は実践をもとにした講話や発表に、青少年の健全育成の重要性をあらためて感じ取っていました。

## 全国広報コンクール県選考

# 「広報とめ」「市ホームページ」が全国へ

社団法人日本広報協会が主催する平成18年全国広報コンクールへ、広報紙（市部）の部で広報とめ17年12月号、ホームページの部で市のホームページが県代表として推薦されることになりました。

市となった今回は、仙台、石巻を除く県内10市（市部）からの代表となります。コンクールは、全国の自治体で17年中に発行された広報媒体を対象に実施されます。推薦される広報とめ17年12月号は、A4判44ページのもので、このうち特集の「九つがひとつに」では、旧町域でそれぞれ力を注いできた農業や教育、イベントなどが、合併により大きな力になったことを「人」をキーワードに紹介しました。

また、ホームページは、市民向けのイベントや市のお知らせなど、さまざまな情報を掲載しています。広報紙は皆さんからの情報があつて作られます。忙しい中、快く取材に応じていただいた皆さん、原稿や情報を寄せていただいた皆さんに感謝いたします。

今後皆さんから親しまれる広報紙やホームページの作成に努めていきます。



全国広報コンクール県選考で全国へ推薦された「広報とめ」17年12月号

# 文化財を災害から守るために 「文化財防火デー」市内各地で防災訓練

1月26日の文化財防火デーにちなみ、1月下旬、市内各地で防災訓練が実施されました。

文化財防火デーは、昭和24年の法隆寺金堂壁画（国宝）焼失を教訓に、貴重な文化的遺産を火災や震災などの災害から守るために定められています。

迫町では1月29日、津島神社で、佐沼地区コミュニティや自主防災組織、婦人防火ク



隣の人に素早くバケツを手渡す初期消火訓練

ラブ、神社関係者ら約170人が参加して実施しました。市長は「これまで風雪や地震などに耐え、地域の方々に愛されてきた貴重な文化財を守るためには、地域の皆さんの力が重要です。いざというときに備え、訓練を通して防災方法を身に付けてください」とあいさつしました。

訓練は、宮城県沖を震源とするマグニチュード7の地震で、神社付近の住宅から火災



のこぎりやボールを使って屋根を壊し救出しました

が発生し、神社本殿に延焼したものと想定して実施。消防署への通報訓練や文化財の搬出訓練、本殿への放水による消火訓練が行なわれました。また、建物倒壊で下敷きになった人が人を助け出す訓練や、バケツリレーで延焼を食い止める初期消火訓練なども行なわれ、住民が協力して被害を最小限に抑える大切さを学びました。